

2022 年 5 月 25 日

2021 年度 事業報告及び決算報告書
(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

- I 法人の概要
- II 事業の概要
- III 決算及び財務の概要
- IV 別冊資料
 - 1 計算書類
 - 2 参考資料
 - 1) 事業活動収支推移（法人全体）
 - 2) 事業活動収支推移（部門別）

学校法人国立音楽大学

目 次

I 法人の概要

- 1 基本情報（設置学校、キャンパスの所在地）
- 2 建学の精神
- 3 沿革
- 4 設置する学校・学部・学科等
- 5 設置学校の入学定員・学生数の状況
- 6 設置学校の収容定員充足率
- 7 役員の概要
- 8 評議員の概要
- 9 教職員の概要

II 事業の概要

- 1 教育研究事業
 - 大学、大学院
 - 附属中学校・高等学校
 - 附属小学校
 - 附属幼稚園
- 2 施設の整備

III 決算及び財務の概要

- 1 決算の概要
- 2 その他
- 3 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

IV 別冊資料

- 1 計算書類
- 2 参考資料
 - 1) 事業活動収支推移（法人全体）
 - 2) 事業活動収支推移（部門別）

I. 法人の概要

1 基本情報（設置学校、キャンパスの所在地）

国立音楽大学

190-8520 東京都立川市柏町5-5-1 TEL)042-536-0321

HP) <https://www.kunitachi.ac.jp/>

国立音楽大学附属中学校／高等学校普通科・音楽科

186-0005 東京都国立市西2-12-19 TEL)042-572-4111 Fax)042-573-7962

HP) <http://www.kunion.ed.jp/>

国立音楽大学附属小学校

186-0005 東京都国立市西1-15-12 TEL)042-572-3531 Fax)042-576-5730

HP) <http://www.onsho.ed.jp/>

国立音楽大学附属幼稚園

186-0004 東京都国立市中1-8-25 TEL)042-572-3533 Fax)042-573-9977

HP) <http://k-onyo.sakura.ne.jp/>

2 建学の精神

自由、自主、自律の精神を以て良識ある音楽家、教育家を育成し、日本及び世界の文化の発展に寄与する。

3 沿革

大正15年 4月 本学の前身、東京高等音楽学院創立（仮校舎を東京市四谷区番衆町に置く）
予科、本科（声楽・器楽・作曲）、高等師範科、師範科、研究科、選科を置く

11月 国立大学町(昭和27年・1952、文教地区に指定される)に校舎が竣工し移転

昭和16年 8月 中等学校音楽科教員無試験検定を認可

昭和22年 7月 国立音楽学校と校名変更認可

昭和23年 5月 財団法人国立音楽学校となる

昭和24年 4月 国立音楽高等学校・国立中学校設置

昭和25年 4月 国立音楽大学設置、従来の声楽・器楽・作曲の他に楽理学科・教育音楽学科を新設

7月 国立幼稚園設置

9月 楽器研究所設置

昭和26年 2月 学校法人国立音楽大学に組織変更認可

	4月	別科(作曲・声楽・器楽・調律・リズム)設置
昭和27年	7月	附設保育科設置(幼稚園教諭養成機関として認可・1年制)
昭和28年	4月	国立音楽大学附属小学校設置
昭和30年	4月	大学に2部(夜間部)を設置
昭和31年	4月	専攻科(作曲・器楽・声楽・楽理・教育音楽)設置 附設保育科を改組し幼稚園教諭養成所(幼稚園教諭養成機関として認可・2年制)とする
昭和35年	2月	幼稚園教諭養成所が各種学校として認可
昭和37年	4月	別科は調律専修を除き学生募集停止
昭和38年	4月	教育音楽学科に幼児教育専攻を設置 国立音楽高等学校に普通科を設置
昭和41年	4月	大学上水台校舎(立川市柏町)で授業開始
昭和42年	4月	附属小学校新校舎へ移転
昭和43年	4月	大学院音楽研究科(修士課程)を設置、専攻科は学生募集停止
昭和44年	3月	専攻科廃止
昭和50年	4月	法人本部を国立市から立川市に移す 附属の各校(園)名を変更し統一する 国立音楽大学附属音楽高等学校、国立音楽大学附属小学校 国立音楽大学附属中学校、国立音楽大学附属幼稚園
昭和51年	4月	音楽研究所、楽器技術センターを設置
昭和53年	4月	大学位置変更(国立市から立川市へ) 附属音楽高等学校・中学校位置変更(国立市西)
昭和54年	6月	大学2部(夜間部)廃止
昭和63年	4月	楽器学資料館設置
平成2年	4月	学科名一部変更、楽理学科を音楽学学科、教育音楽学科から音楽教育学科とする
平成3年	4月	大学音楽デザイン学科・応用演奏学科開設
平成16年	4月	大学学科再編(演奏学科・音楽文化デザイン学科・音楽教育学科の3学科体制)、収容定員減並びにカリキュラム改編 附属音楽高等学校を国立音楽大学附属高等学校と校名改称
平成19年	4月	大学院音楽研究科音楽研究専攻(博士後期課程)設置
平成23年	4月	大学の演奏学科にジャズ専修を新設
平成26年	4月	大学学科再編(演奏・創作、音楽文化教育の2学科体制)、収容定員減並びにカリキュラム改編 附属中学校・高等学校を併設型中高一貫校へ変更
平成30年	4月	別科調律専修学生募集停止

4 設置する学校・学部・学科等

国立音楽大学

音楽学部 演奏・創作学科、音楽文化教育学科

音楽研究科（修士課程）声楽専攻、器楽専攻、作曲専攻、音楽学専攻、音楽教育学専攻

音楽研究科（博士後期課程）音楽研究専攻

国立音楽大学附属高等学校

音楽科、普通科

国立音楽大学附属中学校

国立音楽大学附属小学校

国立音楽大学附属幼稚園

5 設置学校の入学定員・学生数の状況

<学部>

(2021年5月1日現在)

学部	学科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
音楽学部	演奏・創作学科	260	286	1160	1102
	音楽文化教育学科	60	57	360	226
合計		320	343	1520	1328

(人)

<大学院（修士課程）>

(2021年5月1日現在)

研究科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
音楽研究科	作曲専攻	4	9	8	13
	声楽専攻	8	24	16	37
	器楽専攻	16	24	32	44
	音楽学専攻	4	2	8	3
	音楽教育学専攻	4	3	8	6
合計		36	62	72	103

(人)

<大学院（博士後期課程）>

(2021年5月1日現在)

研究科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
音楽研究科	音楽研究専攻	5	6	15	22

(人)

＜附属学校＞

(2021年5月1日現在)

学校名	学科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
高等学校	音楽科	105	79	315	244
	普通科	70	63	210	201
中学校		70	49	210	161
小学校		80	42	480	279
幼稚園		48	34	144	96

(人)

6 設置学校の収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
大学	93%	88%	83%	83%	87%
高等学校	80%	83%	88%	88%	85%
中学校	100%	99%	93%	86%	77%
小学校	62%	59%	59%	61%	58%
幼稚園	58%	63%	61%	64%	67%

7 役員の概要

理事の定員数5～8名

	職務	氏名	常勤・非常勤	現職	就任年月日
理事	理事長	山田晴彦	常勤		H31.4.1
理事	学長	武田忠善	常勤	国立音楽大学 音楽学部特任教授	H23.4.1
理事	経営戦略 担当	杉浦正和	非常勤	早稲田大学 大学院教授	H31.4.1
理事	総務・財務 担当	重盛次正	常勤		H31.4.1
理事		花岡千春	非常勤	国立音楽大学 音楽学部特任教授	H23.4.1
理事	経営企画・ 広報担当	杉江知都子	常勤	国立音楽大学 総合企画部長	H31.4.1
理事	附属担当	古川 聡	常勤	国立音楽大学 音楽学部教授	H27.4.1

理事		永峰高志	常勤	国立音楽大学 音楽学部教授	H31.4.1
監事		遠藤正敏	非常勤		H31.4.1
監事		後藤 修	非常勤	ホシザキ㈱執行役員 チーフ・リーガル・オフィサー	H31.4.1

8 評議員の概要

定員数15～27名

氏名	現職	就任年月日
永峰高志	国立音楽大学音楽学部教授・理事	H31.4.1
古川 聡	国立音楽大学音楽学部教授・理事	H27.4.1
今村央子	国立音楽大学音楽学部教授	H31.4.1
三木香代	国立音楽大学音楽学部教授	H31.4.1
杉江知都子	国立音楽大学総合企画部長	H19.4.1
正木麻里子	国立音楽大学演奏部長	H27.4.1
石堂 浩	国立音楽大学総務・財務部長	H31.4.1
柄田明美	国立音楽大学図書館事務室主任司書	H31.4.1
五十嵐 稔	国立音楽大学附属中・高教諭副校長	H31.4.1
秋場健志	国立音楽大学附属中・高教諭	H27.4.1
家城直子	国立音楽大学附属小学校教諭	H31.4.1

木村奈々	国立音楽大学附属幼稚園教諭	H31.4.1
三戸 誠	国立音楽大学音楽学部非常勤講師	H31.4.1
渋谷淑子	国立音楽大学音楽学部特任教授	H27.4.1
三浦三枝子	有限会社ワンダーワールド代表取締役	H27.4.1
小川哲生	国立音楽大学同調会幹事代表	H31.4.1
太宰信也	下志津病院こじか保育園園長	H31.4.1
中村暢	公益財団法人音楽文化創造研究室室長	H31.4.1
木村 元	(株) アルテスパブリッシング代表取締役	H27.4.1
新海紀代美	(株) 立川都市センター監査役	H27.4.1
白柳龍一	GVIDO MUSIC (株) 常務執行役員 株式会社ぶらあぼホールディングス取締役会長	H31.4.1
中西穂高	帝京大学産学連携推進センター教授・ センター長	H31.4.1
中野哲夫	(株) 東急文化村代表取締役社長	H31.4.1
石間 裕	有限会社石間企画事務所代表取締役	H31.4.1

9 教職員の概要

	学校	本務者数	兼務者数	平均年齢
教員	大学	77	313	51.7
	高等学校	28	74	46.5
	中学校	11	17	40.7
	小学校	25	21	44.6
	幼稚園	6	8	35.8
合計		147	433	33.9
職員	大学	70	159	34.6
	高等学校	8	10	35.5
	中学校	1	1	52.0
	小学校	2	4	44.1
	幼稚園	0	3	47.7
合計		81	177	45.8

Ⅱ. 事業の概要

2021 年度は、まず 2020 年度に策定し推進してきた 11 の基本計画の進捗状況の確認をした上、必要に応じた調整や補完を行いました。次に、11 の基本計画を更に発展させた新たな事業を設定し（「2021 年度 事業計画書」）、それらを推進しました。

1. 教育研究事業

大学、大学院

1 重点施策の推進

重点施策の 11 の柱（基本計画）は、2020 年度に引き続き下記の通り設定しました。

- 1) 大学・大学院の教育研究活動（教学）
- 2) 演奏芸術の振興
- 3) 社会貢献・地域連携
- 4) 「くにおんアカデミー」の開設
- 5) グローバル教育センターの設置
- 6) 管理・運営
- 7) 施設環境整備
- 8) ICT 環境整備
- 9) 新たな財源の確保
- 10) 広報活動の強化
- 11) 学校間連携

2 教育関連活動（重点施策 1)、5)、8))

①カリキュラムの見直し（大学）

大学における、汎用スキルやキャリアに関する科目カテゴリーである「教養科目・共通選択科目」について、学長が委員長である「くにおん改革プロジェクト（第 2 期）」で検討を行いました。「教養科目・共通選択科目」全体としては、集中と選択により、科目数のスリム化が多少行われ、選択外国語科目では科目名の統一が図られましたが、専門科目と教養科目・共通選択科目、キャリア教育を「学修成果の保証」に結びつけるまでの統合的・有機的なスキーム作りまでには至りませんでした。引き続き、「くにおん改革プロジェクト」などで慎重に検討を重ねると同時に、2022 年度に運用すべく予定されている「教学マネジメント体制」の中でも協議し、推し進めていくこととしました。

ICT に関連した科目の策定・実施については、コンピュータ音楽専修の教員と検討した結果、将来的には単位科目として導入することを前提に、メディアセンター主催の特別講座として ICT に関連したパイロット授業（ワークショップ）を開催しました。授業内容は、音楽テクノロジーおよびメディア教育として、演奏の録音・録画・配信技術等を実践的に

学ぶものとなりました。この講座の募集を開始してすぐに定員となるなど、学生には大変好評で、追加講座も行いました。学生の意見などの分析も踏まえ、引き続き実施し、単位科目化していく予定です。

また、コース制の選択肢を広げるとしていた計画は、新たにジャズコースを加えることで実現させました。もともとあったミュージカルコースについては、基礎課程を含めたプログラムを強化し、そのための教員も増員し、更なる充実を図りました。

②クォーター制導入について

コロナウイルス感染症下が続いていることもあり、2021年度は検討を行いませんでした。今後、コロナウイルス感染症や留学生の状況について常に情報収集しながら、時機に応じた検討を行い、方向性を定めていくこととします。

③ICT 活用の推進

オンライン授業をより円滑に実施するため、「授業目的公衆送信補償金」の支払いを行いました。今後も継続予定です。

また、ディプロマコースについて、オンラインによる受講も認めたことで、受講希望者の幅が広がりました。これに伴い、今後の講師増員等も見据え、予算拡大を検討する予定です。

更に、本学の演奏会やイベントへのチケット等の申し込みを ICT 化し、申込者の利便性の向上を図ると共に事務作業の効率化を実現しました。

ICT に関わる授業については、①で説明した通りです。この授業実施のため、実践用機材の購入に先んじて、6-110 スタジオの舞台照明設備に DMX 信号を増設し、収録スタジオとして整備を進めました。

音楽大学として質の高い教育に不可欠な良好な音色の楽器を維持・管理することを目的とし、SPC ピアノ練習室に二次元バーコード読み取りによる調律依頼システムを実験的に導入し、検証を行いました。検証の結果、学生の調律依頼のしやすさ向上、楽器メンテナンスの良好な維持・管理が可能と判断し、今後、学科教室やアンサンブル室、レッスン室への導入も検討します。

④LibrariE、Henle Library、nkoda の導入

附属図書館では、オンラインによる学習および研究支援の向上として、LibrariE（電子図書）、Henle Library（電子楽譜）、nkoda（電子楽譜）の3つの電子サービスを導入しました。Henle Library および nkoda との機関契約は、本学附属図書館が国内初であり、学内外から大きな反響がありました。



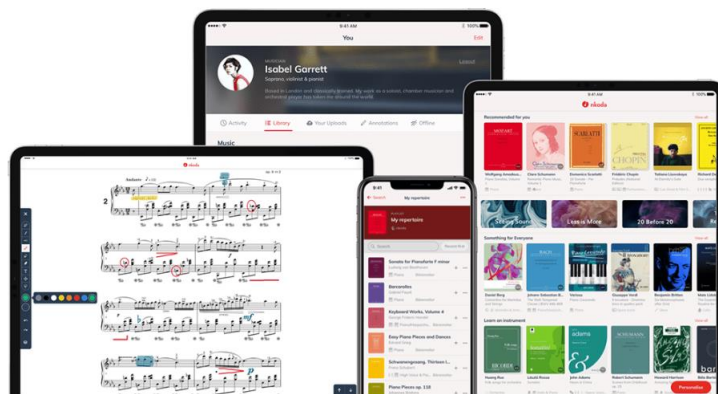
□本学公式 web サイトより
「ヘンレ出版 ズィグルン・ヤンツェン博士からのメッセージ」動画

□本学公式 web サイトより
nkoda のプレスリリース

【プレスリリース】 国立音楽大学、日本の大学で初めてデジタル楽譜サービス 「nkoda」を導入

国立音楽大学（読み：くにたちおんがくだいがく、所在地：立川市、学長：武田 忠善、以下「本学」）は、nkoda社の提供するデジタル楽譜サービス「nkoda」を日本の大学で初めて導入しましたのでお知らせいたします。

本サービスの導入は、イギリスの王立音楽院やミラノ音楽院等の著名な音楽大学や、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ボストン交響楽団といった世界有数のオーケストラに続く導入となります。「nkoda」は約100社にのぼる出版社の楽譜を閲覧できるサービスで、スマートフォン、タブレット、パソコン上でオーケストラのスコア、パート譜をはじめとする幅広いジャンル、編成の楽譜を学生、教員が無料で閲覧できるほか、強弱記号、コメントの書き込みや、書き込んだ情報をグループでシェアすることもできます。複数の出版社の同一作品の楽譜の比較も容易に行うことができるため、より一層の作品理解につながることを期待されます。



⑤内部質保証について

本学「自己点検・評価委員会」では 2～3 年ごとに「自己点検・評価報告書」を作成し、問題点や課題の洗い出しとその改善・向上目標を設定し、PDCA サイクルを回しています。2021 年度は、「国立音楽大学 自己点検評価書 2020 年度」をまとめ、本学公式 web サイトで公開しました (<https://www.kunitachi.ac.jp/introduction/evaluation.html>)。

上記「自己点検・評価」を行った結果、これまで定めなかった「内部質保証の方針」を策定し、その方針に基づいた教学マネジメント体制の整備を開始しました。現行の「大学教育研究協議会」の役割を拡大し、「自己点検・評価委員会」と 2 大柱として、内部質保証を担保する教学マネジメントの整備に当たります。

また「ガバナンス・コード」を策定し、今回の「自己点検・評価委員会」で適合状況を確認・点検しました。

⑥研究論文集（「研究紀要」および「大学院研究年報」）制作と公表について

研究論文集制作について、制作過程における文章推敲精度の向上と業務効率化のため、原稿の素読みや表記統一などの業務を外部委託する予定でした。しかし、適切な委託先が見つからなかったため、文章校正ソフトウェアを購入しました。これにより、表記ゆれや誤字脱字の抽出など一般的な修正については対応可能となり、また、多少ではあるものの、論文集制作の作業量軽減につなげることができました。

⑦音楽イノベーションの推進について

2020 年度から東京大学と共同研究を行っている「オーケストラを用いたヒューマン アン드로이드（オルタ）演奏表現」の研究について、2021 年度はオルタの動作に関する基礎研究として、オルタの歌唱プログラムの構築とそれに適合する身体性に重点を置きました。オルタが合唱を指揮する場面も想定し、実際に演奏する楽譜をオルタの可動範囲ギリギリまで接近して指揮をするという試みを行いました。それを映像録画することで、オルタの動きをプログラミングする実験を行い、今後オルタが構築していく指揮の方法論、合唱作品における言葉の持つ意味の補完・強調の動作など重要な結果が得られました。更なる可能性を探るため、研究を継続していきます。

また、2020～2022 年度の計画で実施してきた楽器学資料館における歴史的ピアノの音を録音し、音響分析を行うプロジェクトは 2022 年が最終年度として遂行中です。調査の中間報告については、『楽器コレクション管理資料集 5 活動報告篇 2021 年度版』に掲載しています。

⑧大学における入試制度改革

2020 年度入試から導入したインターネット出願が定着し始め、出願者の利便性が向上するとともに、大学側の事務作業の効率化も図ることができました。更に、インターネット出願システムを 2 年間運用した結果得られた問題点や課題などを解決するため、現場の運用に合わせた改修などを行いました。

また、総合型選抜に C 日程を追加し、より多くの受験機会を提供することで、新たな受験者層の獲得に門戸を開きました。

入試における対面方式とオンライン方式の併用については、2020 年度に引き続き 2021 年度も継続しました。

大学院修士課程の入試改革については、引き続き検討中です。

⑨学生支援

学生が安心して学びを継続するために、例年同様に「国立音楽大学奨学金」の募集を行いました。説明会は 7 月と 9 月に行われ、52 名の申込者に対し、学生生活委員会の審査を経て、申込者全員に無利子貸与を実施しました。

新型コロナウイルス感染症が未だ収まらない中、その影響による景気の悪化を要因とした家庭における収入源などにより修学が困難となる学生も未だ存在しています。そのような学生を支援するために、2020 年度に引き続き、国による補助金を利用した新型コロナウイルス感染症による家計急変学生への学費減免を実施し、18 名に支援を行いました。

その他、9 月には日本学生支援機構「新型コロナウイルス感染症対策助成事業（「食」・「住」に対する支援）」を活用し、また、同調会および後援会からの寄付と合わせ、産学連携協定を結んでいる株式会社いなげやの協力を得ながら、全学生に感染症対策用品を含めた食料品などの詰め合わせセット（パックご飯、カップ麺、レトルトカレー、感染症対策商品）を給付しました。このセットは、楽器をモチーフとしたイラストが描かれたオリジナルエコバッグに入れて配付されました。



□パックご飯、カップ麺、レトルトカレー、感染症対策商品などの詰め合わせを給付

学生への新型コロナウイルスワクチン接種については、9 月 1 日に、LiveCampus を通じて学生全員へ接種希望調査を行い、希望した学生 67 名について、校医と日程調整をし接種を実施しました。

卒業生の就職先企業へのアンケートについては、年度計画の通り実施し、その結果をまとめ「卒業生の就職先等の進路先の意見聴取等の調査（2019 年度卒業生）」として、web サイトに掲載しました。これを第 1 歩として今後も継続し、学生のキャリア支援に活かせるよう随時工夫を重ねながら進めていく予定です。

（https://www.kunitachi.ac.jp/documents/introduction/data/disclosure/2021/career_company_2021.pdf）

《学生支援課実施事業一覧（定例事業）》

新型コロナウイルス感染症対策のため様々な工夫をしながら実施しました。

実施日	場所	名称	内容
6 月 26 日（土）	新 1 号館	第 66 回七夕祭「とどけ、みんな」	関係学生のみ。メン

		なの願い～笑顔あふれる明るい未来へ～	バーを2チームに分け交替で実施。
10月29日（金） ～31日（日）	Online	オンライン芸術祭「おうち芸祭 第二楽章 ～今こそ音楽を分かち合おう～」	動画を順次公開。23団体の参加。
11月22日（土）	新1号館	音楽文化教育学科生による「MUSIC スペース」	ツリー点灯式のみ。



□第66回七夕祭ー

人数を各学年半分に設定し、常にドアを開けて室内の換気、常時マスク着用、手指などのアルコール消毒と細心の注意を払って行った。

おうち芸祭 第二楽章～今こそ音楽を分かち合おう～開幕！



□オンライン
芸術祭

[Top Page](#)

⑩グローバル教育センターについて

グローバル教育センターの設置について検討を行いましたが、未だコロナウイルス感染症下にあり、刻々と変わる国内・国外状況から、引き続きの判断・検討が必要な状況と判断し、2021年度の実現には至りませんでした。今後は、「くにおん改革プロジェクト」において、どのように進めていくか、どのような内容としていくか、検討を継続していきます。

3 研究関連活動（重点施策 1）

①RA 参画研究プロジェクト

2020 年度後期にスタートした「RA 参画研究プロジェクト」について、2021 年度は、博士課程および研究生合わせて延べ 14 名を RA として採用し、また、7 件のプロジェクトを実施しました。その成果については、2022 年度に RA 業務報告書としてまとめることになっています。

②宮田まゆみ招聘教授 2021 年度「国際交流基金賞」受賞

宮田まゆみ招聘教授が、2021 年度「国際交流基金賞」を受賞しました。「国際交流基金賞」は、学術、芸術その他文化活動を通じ、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に特に顕著な貢献があると認められた個人・団体に与えられるものです。

宮田まゆみ招聘教授の受賞理由として、国際交流基金は以下のように発表しています。

宮田まゆみ（笙奏者）【日本】

受賞理由

雅楽の伝統楽器、笙演奏の第一人者である宮田まゆみ氏は、1979 年より国立劇場の雅楽公演に出演。1983 年より笙のリサイタルを開催し、注目を集めてきた。古典雅楽は言うまでもなく、現代音楽界の巨匠であるジョン・ケージ、武満徹、ヘルムート・ラッヘンマン、細川俊夫による新作の世界初演を次々を行う等、雅楽の伝統楽器の可能性を世界に向けて発信してきた。

共演したオーケストラは、サイトウ・キネン・オーケストラ、NHK交響楽団をはじめ、ニューヨーク・フィルハーモニック、ベルリン・ドイツ交響楽団、バンベルク交響楽団、リヨン国立管弦楽団、BBC交響楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ベルギー王立歌劇場管弦楽団等枚挙にいとまない。また、ザルツブルク、ウィーン・モデルン、ルツェルン、ドナウ・エッシンゲン、タングルウッド等、各国の著名な音楽祭にも出演を果たしてきた。さらに1998年に開催された長野五輪冬季大会開会式での「君が代」演奏でも大きな注目を集めた。

ドイツの作曲家ヘルムート・ラッヘンマンのオペラ「マッチ売りの少女」では重要なソリストとして抜擢され、ドイツのハンブルクでの世界初演を皮切りにフランス、オーストリア、スイス、アルゼンチンを周り、チェコ出身のコンテンポラリー・ダンスの振付家イリ・キリアンとの共演でも世界中で笙の魅力を伝えた。

また、宮田まゆみ氏は基金賞受賞作曲家である武満徹（1993 年受賞）と細川俊夫（2018 年受賞）の多くの作品で初演・共演を世界中で重ねてきた。彼らの創作活動にも多大な影響を及ぼすと共に、長年にわたり雅楽の伝統楽器「笙」を通じた国際相互理解の促進に貢献してきており、その業績は国際交流基金賞にふさわしい。



□国際交流金
web サイトよ
り
(<https://www.jpf.go.jp/j/about/award/archive/2021/index.html#Recipient02>)

4 社会貢献・地域連携（重点施策 2）、3）、4）

①青梅市、羽村市との地域振興・人材育成に関する連携協定を締結

本学は 2021 年 6 月 24 日に青梅市と、2021 年 9 月 10 日に羽村市と、それぞれ「地域社会の芸術、文化、教育、まちづくりなどの振興、人材育成に関する連携協定」を締結しました。

青梅市では、同市に拠点を置く「公益財団法人青梅佐藤財団」が 2000 年代初頭より、本学の学生を招いてのオーケストラ演奏会、ブラスオルケスター演奏会を開催しており、2020 年 11 月には本学と正式に連携協定を締結しています。また青梅市の各学校では吹奏楽が盛んで、同市から本学へ多くの学生が入学している関係で、大学生と地元の中高生は先輩・後輩の強い連帯意識を持っています。今後より一層双方の交流、本学での社会教育活動を含めた音楽交流の機会を設けるなど、包括的な交流事業が検討されます。

羽村市は、平成元年に羽村東小学校にオーケストラを編成したことを契機に、音楽のあるまちづくりを推進しており、また、平成 18 年に「生涯学習センターゆとろぎ」を開設し、芸術文化活動支援や芸術鑑賞事業の実施など、地域社会の芸術・文化・教育振興に実績があります。本学との関係においても、2010 年より本学学生の演奏による小学校音楽鑑賞教室が開催されています。本学と羽村市は今回の連携を契機として、芸術鑑賞事業をはじめ、地域の教育・芸術振興の発展を共に推進することを約束し、連携協議会を設置しました。また今回の連携を記念して 2022 年 2 月 20 日には本学教員と学生による「プレミアム・コンサート」が開催されました。



締結式にて 青梅市長：浜中啓一（左）
学長：武田忠善（右）



締結式にて 羽村市長：橋本弘山（左）
学長：武田忠善（右）

②「くにおんアカデミー」に「おとなのためのミュージック・アトリエ」を開講

2021年度は、「くにおんアカデミー」の新たなコースとして、「おとなのためのミュージック・アトリエ」を開講しました。このプログラムは、初心者から演奏経験者、音楽に関する様々な事を知りたい方まで、大人ならではの幅広い対象者を募り、ひとりひとりの目的に合わせたバラエティに富むレッスンや講座を行います。

https://www.kunitachi.ac.jp/introduction/kunion_academy/senior_training.html

またそれと軌を一にして、2021年4月から先んじて開講していたジュニアのクラスを、「ジュニア ミュージック・アトリエ」と改称し、この名称を以て附属各校の音楽教室と統一を図りました。

https://www.kunitachi.ac.jp/documents/introduction/kunion_academy/k-academy.pdf

③演奏芸術センター実施事業一覧（定例事業含む）

※発表会、卒業演奏会、修了演奏会は除いています。

	日程	会場	名称	備考
1	4月17日（土）	講堂大ホール	KUNION Welcome Concert	
2	5月7日（金）	ゆとろぎ大ホール	羽村市小学校音楽鑑賞教室 （オーケストラ）	中止
3	5月8日（土）	ゆとろぎ大ホール	青梅佐藤財団主催 音楽大学オーケストラ演奏会	中止
4	5月11日（火）	講堂大ホール	立川市中学校音楽鑑賞教室 （オーケストラ）	中止
5	5月13日（木）	ルネこだいら	小平市中学校音楽鑑賞教室 （ブラスオルケスター）	中止
6	5月15日（土） 5月16日（日）	アクトシティ浜松	ジャパンバンドフェスティバル	辞退
7	5月21日（金）	ルネこだいら	小平市小学校音楽鑑賞教室 （オーケストラ）	中止
8	5月25日（火）	合唱スタジオ	トマ・ルルー チューバ公開レッスン	中止
9	5月30日（日）	講堂大ホール	ファミリーコンサート 2021	中止
10	6月6日（日）	講堂大ホール	オーケストラワークショップ	中止
11	6月19日（土） 6月20日（日）	講堂 他	吹奏楽ワークショップ	中止
12	6月23日（水）	講堂小ホール	第107回ソロ・室内楽定期演奏会	
13	6月30日（水）	合唱スタジオ	細川俊夫 作曲ワークショップ	

14	7月12日(月)	講堂大ホール	第135回オーケストラ定期演奏会 公開リハーサル	
15	7月13日(火)	東京オペラシティ コンサートホール	第135回オーケストラ定期演奏会	
16	7月16日(金)	東京芸術劇場 コンサートホール	第62回ブラスオルケスター定期演奏会	
17	7月18日(日)	第1号館内 他	ピアノフェスティバル	中止
18	8月19日(木)	講堂大ホール	夏のコンサート	
19	8月23日(月)	オーケストラスタジオ	アンサンブル・アンテルコンタンポ ラン・メンバー 作曲公開講座	辞退
20	8月28日(土)	オーケストラスタジオ	マティアス・ピンチャー 作曲公開 講座	辞退
21	9月7日(火)	講堂小ホール	ワルター・アウワー フルート公開 レッスン	中止
22	9月9日(木)	講堂小ホール	白井光子 声楽公開レッスン	中止
23	9月11日(土) 9月12日(日)	第1号館内	声楽ワークショップ	中止
24	9月18日(土)	講堂小ホール	ウィリアム・マッテウツィ 声楽公開レッスン	中止
25	9月29日(水)	講堂大ホール	Basic オーケストラ	
26	10月2日(土)	講堂大ホール	聴き伝わるもの、聴き伝えるもの— 20世紀音楽から未来に向けて—第 16回	
27	10月16日(土) 10月17日(日)	講堂大ホール	大学院オペラ 2021 モーツァルト: 歌劇「コジ・ファン・ トゥッテ」	
28	10月24日(日)	講堂大ホール	第52回打楽器アンサンブル定期演 奏会	
29	10月26日(火)	講堂小ホール	ヤコブ・ロイシュナー ピアノ公開レッスン	中止
30	11月6日(土)	羽村ゆとろぎ	青梅佐藤財団主催 ブラスオルケスター演奏会	
31	11月13日(土)	講堂大ホール	第20回声楽専修合唱演奏会	
32	11月18日(木)	講堂小ホール	パスカル・ドゥヴァイヨン ピアノ公開レッスン	
33	11月20日(土)	講堂小ホール	第40回作曲作品展	

34	11月24日(水)	講堂小ホール	第108回ソロ・室内楽定期演奏会	
35	12月2日(木)	講堂小ホール	海老彰子 ピアノ公開レッスン	
36	12月4日(土)	ミューザ川崎	第12回音楽大学オーケストラ・フェスティバル 2021	
37	12月4日(土)	講堂小ホール	2021年度大学院歌曲コース・コンサート	
38	12月12日(木)	講堂大ホール	第50回シンフォニック ウィンドアンサンブル	
39	12月24日(金)	講堂大ホール	第136回オーケストラ定期演奏会	
40	2021年3月6日(日)	講堂大ホール	ミュージカル・コンサート	
41	3月18日(金)	桃華楽堂 (皇居東御苑内)	音楽大学卒業生演奏会 (無観客)	
42	2022年3月26日(土)・27日(日)	ミューザ川崎(26日) 東京芸術劇場(27日)	第11回音楽大学フェスティバル・オーケストラ演奏会(9音楽大学選抜合同オケ)	
43	2022年3月27日(日)	たましん RISURU ホール	国立音楽大学コンサート 早春の室内楽	

5 施設環境整備(重点施策7))

①パソコン教室のパソコンシステムの更改

ICT 教育を更に推進するため、パソコン教室を使用している教員も参加し、契約先との打ち合わせを行い、ソフトウェアだけでなく、ハードウェアについても、要不要、再利用の可否など選別しました。加えてパソコン機器の機種を選定や機器の再配置などにより、ICT 環境の整備を進めました。

②「楽器学資料館」web サイトの刷新

これまで利用してきた「楽器学資料館」web サイトの管理システムを見直しました。現行の管理システムでは、職員自身が web サイトの構成を変更できない仕様になっていたため、情報周知のための改善ができませんでした。そこで、閲覧者が情報を見つけやすく、スマートフォンでも操作性のいい構成にデザインし、簡単な更新や変更などは職員自身でできるような仕様を提供する会社と新たに契約し直しました。簡単な操作が内部でできるようになったと同時に、“楽器学資料館らしさ”を反映したデザインとコンテンツにリニューアルをしました。また、2021年度はSSLサーバ証明書を取得し、セキュリティレベルを高めました。

③ネットワーク環境整備

2021 年度から開始する予定だった老朽化したネットワーク機器のリプレースメントは、2022 年度からの実施に変更しました。整備が完了するのは、2025 年度の予定です。2021 年度は夏期休暇期間を利用して、経年劣化の確認された各サーバの一部更改を行い、サーバの一部クラウド化、仮想サーバ化を実施する事で、よりセキュアな環境を整えました。

6 組織運営体制（重点施策 6）、9）、10）、11）

①広報活動

2020 年度から強化を図っている動画コンテンツを更に充実しました。各種演奏会や Web オープンキャンパスに加え、2021 年度は教員企画による二重唱と受験生へのメッセージ動画や学生制作の大学 PV を更新しています。

また、YouTube チャンネル登録者は去年度と比較し、約 2,000 人増加しています。

2021 年度時点で本学の情報発信として利用しているインターネット上のプラットフォームは、以下の通りです。

- ・ YouTube
- ・ facebook
- ・ Instagram
- ・ twitter

(LINE：テスト運用開始)

□Harmony of くにたち（2021 年度公開コンテンツ）

[9 月 13 日配信 第 134 回オーケストラ定期演奏会]



[10月19日配信 ミュージカル・コンサート『いのちの森』]



[11月22日配信 第135回オーケストラ定期演奏会]



[2022年3月14日配信 第49回シンフォニック ウィンド アンサンブル定期演奏会]

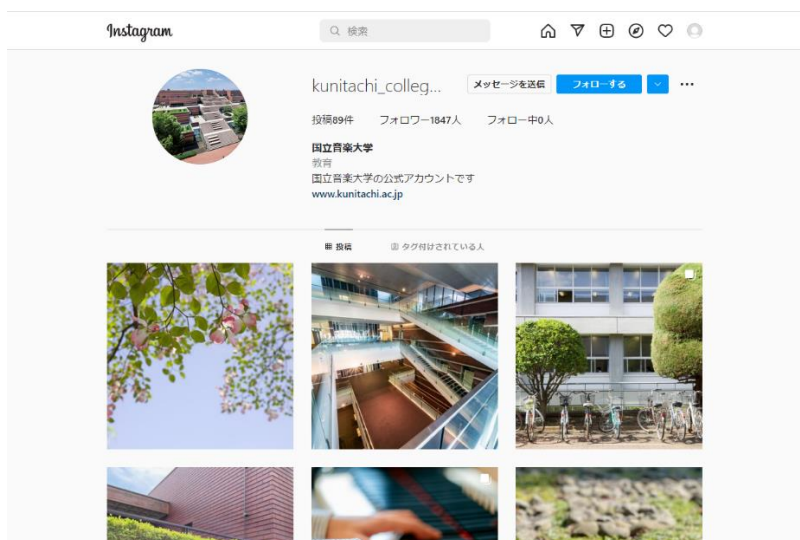


□facebook (2022.5.9)

facebook



□Instagram (2022.5.9)



□twitter (2022.5.9)



2021 年度事業計画の「バスツアーに長野方面を加える」件は、計画通り進め、松本および甲府発ルートを新規追加しました。この成果については 3～5 年の推移を確認し、長野方面エリアへの広報的アプローチの是非を評価する予定です。

□広報センター実施事業一覧（定例事業含む）

	日程	会場	名称
1	4 月 21 日～5 月 25 日	※スケジュール日程に従う	指定校訪問
2	4 月 11 日～5 月 9 日	新潟、金沢、名古屋、松江、大阪、札幌	進学ガイダンス
3	4 月 30 日～11 月	※スケジュール日程に従う	高校等来訪（一部中止・延期）
4	5 月 23 日	大学	春のオープンキャンパス（オンライン）
5	5 月 26 日～ 2021 年 3 月 9 日	※スケジュール日程に従う	指定校訪問、高校等訪問
6	7 月 3 日	茨城、栃木、群馬、神奈川、静岡、長野、山梨（発）	バスツアー
7	7 月～8 月	立川、沖縄、埼玉、福岡、山形	出張模擬授業
8	8 月 19 日～22 日	大学	夏期受験準備講習会
9	9 月 27 日	大学	附属高校キャンパスツアー（中止）
10	10 月 13 日	大学楽器学資料館	附属中学校楽器学資料館見学（延期）
11	10 月 28 日	大学	高校等来訪
12	11 月 19 日	大学楽器学資料館	附属中学校楽器学資料館見学

②実質的な IR 活動に向けて

2019 年 10 月に設置された IR 推進室は、これまで、情報の一元化とその有効活用を目標として、現状把握（どの部署にどのようなデータがあるか、情報がデータ化されているか、データ管理の精度・平準化の確認など）を行ってきました。その間、経営戦略会議において主に大学運営面の IR 資料や個別事案に対する問題解決、課題達成に資する分析資料を提示してきました。

2021 年度からは、これまで経営企画室が「学校法人国立音楽大学 校史記録」として作成してきたものを、様々なデータによる経年比較、情報の可視化の観点から、改めてその内容や構成などを再確認し、「FACT BOOK」として IR 推進室が再構築することとしました。2021 年度は再構築のための検証を細かく行い、原稿を書き進めるなどの作業を始めました。今後、学内情報がデータ化されていないものや、データの取り方により分析前にデータの加工が必要なものなど、いわゆる「データのクリーニング作業」をし、過去 2 年分

まで遡及して作成します。完成した FACT BOOK は 2022 年度に、本学 web サイトで公表予定です。

また、「私立大学等経常費補助金」や「私立大学等改革総合支援事業」など IR 担当者に求められる資質・レベルが上がってきています。それに対応するため、IR 担当者は、2020 年度の「大学マネジメント人材養成プログラム」(筑波大学)履修証明書に続き、2021 年度は「現代統計実務講座修了認定証書」(文科省認定)および「情報処理技術者認定書」(国家資格)を取得しました。

③大学職員高度プロフェッショナル化に向けて

これまでの職員研修に加え、2021 年度からは大学として公式に、「大学マネジメント人材養成プログラム」(筑波大学)に毎年 1~2 名を受講させることに決定しました。

④労働環境整備

業務効率化の一環として、2020 年度の「財務システム」、「稟議システム」および「勤怠管理システム」の導入に続き、「給与 WEB 明細システム」を 2021 年度に導入予定でしたが、2022 年度に変更しました。

また 2021 年度は、働きやすい職場環境の構築および仕事の質・労働生産性を向上させる取り組みの一環として「5S (整理・整頓・清潔・清掃・躰)」を全職員に周知・啓蒙を行いました。今後は、その浸透を図ります。

更に、新型コロナウイルス感染症対策として 2021 年度からリモートアクセスサービスを利用した在宅勤務ができるよう労働環境を整備しました。

⑤財政基盤強化に向けて

財政基盤強化に向け、2021 年度に以下を実行しました。

□2020 年度導入「財務システム」の活用

予算に対する執行実績をまとめ、今後の予算策定に利用できるようにしました。

□奨学金の口座振替について

2021 年 12 月より、奨学金の口座振替による返還を開始しました。

□資産運用に関して

2021 年度は、満期を迎えた商品および期日前償還となった定期預金を利用し、15 億円の仕組債を購入しました。これにより、利金収入は約 30 百万円の増加となります。今後も、リスクを抑制しながら利収入の増加を図り、適正な資産運用ポートフォリオの構築と維持を行っていきます。

□2020 年度開始の「寄付金サイト」について

2020 年度秋に立ち上げた「寄付金サイト」により、2021 年度は 14 百万円の寄付金収入がありました。うち、7 百万円は附属中高の新 2 号館建設プロジェクトへの寄付となっています。

附属中学校・高等学校

《教育環境の整備》

2021 年度には、各教室にプロジェクター付き黒板を設置し、全教室、レッスン室が Wi-Fi 化され、これからのハイブリッド型教育に対応する準備が整いました。

また、教室後部にはアクティブラーニングを導入するにあたって利用される大型のホワイトボードの設置、同時に教室の壁面塗装及びカーテンの新調により教室は格段に明るく落ち着いた環境となりました。2022 年度より各コースともタブレット端末を利用した授業がスタートします。

《新型コロナウイルス対策》

2021 年度もコロナ感染拡大状況に応じてオンライン授業、Zoom レッスン、短縮授業、分散登校等に切り替え、教育活動を継続しました。また、学校説明会や保護者会、個人面談等、積極的に Web を活用しました。

モバイルメールによる日々の健康管理チェック、入校時の自動検温システムによる体温チェック、アルコール手指消毒の徹底、レッスン室にパーテーションを設置、昼食時は黙食、教職員による施設内の消毒等、生徒及び教職員がウィズコロナの生活スタイルを守ったことで、効果的に校内での感染拡大を防ぐことができました。

《国立音楽大学、附属間の連携推進》

2021 年度の新年度を迎えるにあたり、附属幼小中高の新入生と保護者を対象に大学講堂大ホールにて開催したウエルカムコンサートは、音大の学生たちの演奏と歌声による熱演で「くにおん」を感じさせるものとなり、多くの保護者より感謝の言葉が寄せられました。また、夏期には国立音楽大学の教授陣により附属高等学校生徒のために開講した 13 種の講座は、生徒たちや引率の教員にとってどれも魅力ある内容でした。

今回の体験により音大への進学のみならず、音大卒業後の将来を考えるきっかけになりました。引率の教員達も同様に国立音楽大学の教育を体験したことにより、音大への進学相談にプラスとなる情報を得ることができました。

《地域交流》

コロナ禍で途絶えていた近隣地域での合唱、室内楽やソロの生演奏にボランティア活動が再開しました。国立駅前大学通り商店会、国立市商工会青年部による「イルミネーション点灯式」では本校生徒によるファンファーレとともに、一斉にイルミネーションが点灯しました。続いて、合唱部生徒たちによる合唱はクリスマスのムードを大いに盛り上げ、駅前広場を埋め尽くした聴衆を魅了しました。また nonowa 国立クリスマスコンサートでは、ソロ、室内楽による数々の名曲を披露しました。日中の寒い野外での演奏会にもかかわらず、大勢の聴衆が生徒たちの演奏を熱心に聴いてくれました。

《演奏会》

コロナ感染状況により中止せざるを得ないものもありましたが、前期は4月新入生歓迎演奏会、7月には中学校合唱コンクール、後期12月のオーケストラ定期演奏会、くにたち音楽会（合唱）、くにたち音楽会（ソロ・アンサンブル）等が無事に開催されました。卒業演奏会は音大小ホールにて生徒たちに加えて保護者も入場可能な形で開催され、生徒達の演奏を聴いた多くの保護者から感動と感謝の言葉が寄せられました。

《教育改革》

2021年度4月より現2号館の代わりとなる新2号館を建設しており、2022年の12月に竣工予定です。これに合わせ、2023年度入学生より各コース（中学校、高校音楽科、普通科）において、新たな教育内容を提供するため、教育改革プロジェクトチームを編成し継続した検討を重ねています。

《施設環境整備》

3階にあった保健室を生徒が立ち寄りやすい1階西側に移設しました。同時に、時代の流れに合わせて多目的トイレを保健室前に設置しました。また、1号館各階のトイレは洗浄機付トイレに、洗面所は自動水栓式となり、清潔感のある明るい雰囲気になり、生徒たちに好評です。

《ミュージック・アトリエ》

併設音楽教室の本校ミュージック・アトリエは、「くにおんアカデミー ジュニア ミュージック・アトリエ」と名称を変更しました。

開設5年目となり4歳以上の幼児から中学3年生を対象とした個人レッスンと、将来国立音楽大学への進学を希望する本校在学学生を対象に、アフタースクールとして重要な役割を果たしています。特に普通科の生徒が増加傾向です。

附属小学校

1. 「音楽が支える学力」「音楽のもつ力」についての検討・実践

音楽と非認知能力とのつながりを意識した説明を教職員・保護者・学校説明会等の参加者に行い、非認知能力の重要性を普遍化することはできました。

また、「音楽を学びのエンジンとして未来を拓く子どもを育む」をキャッチフレーズとして学校説明会等で伝えてきたため、幼児教室の担当者や説明会参加者等には浸透してきたと考えています。

2. 校内研究の充実と「深い学び」の追究

これからの時代を生きていく子どもたちにとって情報活用能力を身に付けることは言語能力を身に付けることと同じように大切になってきます。そのため学校では「学びのための情報機器」という概念を大切に、その活用を深め、受け身ではなく自ら学びに向かい知識を獲得できる姿勢を育ててきました。

6年生は先行導入学年として、昨年度に引き続き一人1台タブレットを活用して「深い学び」を追究した授業、各家庭との効果的な連絡ツール等で成果を得ることができました。また、他の学年も1か月程度全員がタブレットを活用して授業を行い、来年度の全校一人1台タブレットの導入に向けて生かすことができました。

3. 入学者増につなげる魅力ある広報活動

入学者数の確保に向けて、本校の特色である「豊かな感性を土台とした人間形成」が周知されるよう各種説明会や幼児教室訪問、ホームページ・スクールガイド等で広報活動を行いました。結果として目標としていた60名の確保（現在46名）には至りませんでした。特に、附属幼稚園からの推薦入学者が少なかったことは大きな課題と捉え、増加に向けて努力していきます。

4. 幼・小・中・高・大を見通した一貫教育と附属間連携の充実

附属幼稚園、附属中学校、高等学校、大学との連携をより強化するために、それぞれの学校と一貫教育の観点から協力出来る形を検討し実践していく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で附属間の連携がほとんどできませんでした。

附属幼稚園に対しては、年長児と5年生との関わりに加え、年中児に対するアプローチを増やすとともに年少児に対しても校庭でのお遊び会などの活用を試み、音小を身近に感じられるような実践に取り組みます。

附属中高校に対しては、4月に行った推薦説明会は、参加対象学年を3年生からとしたために、3年保護者からは高評価でした。

5. 金管楽器の活用

子どもたちの金管楽器への興味を喚起するために、長期休業中に金管アンサンブルの演奏を観てもらい、興味を持ってもらえるように計画していましたが、新型コロナウイルス感染症予防のために金管楽器の演奏が難しくなり全くできませんでした。しかし、音楽科の教員と相談し、4年生で鑑賞教材の一つとして、トランペットとホルンの音色に親しむために楽器の構造や音の出る仕組み、形状などを実際に見て聴く学習に活用することができました。

今後は、金管教室などの課外活動と音楽科の授業での活用などの両面で考えています。

附属幼稚園

《教育の質の向上》

1. 質の高い教育内容の実現と発信
2. 教員の質の向上を図る園内研究会の充実

日々の保育や子どもの成長を可視化するドキュメンテーションを開始して 2 年が経過しました。保護者からは良好な評価を得ていますが、子どもの「学びの可視化」と、そこからの教師の計画のみに頼らず、子どもと共に保育をどのように組み立てていくかが現在の課題です。そこで、ドキュメンテーションの意義について外部からの講師を迎えて、園内研究を行いました。

コロナ禍のため、これまで行ってきた参観日の代わりに、少人数の保護者がクラスに参加し保育を味わう「保育参加」を行いました。これは、我が子だけでなく、年齢ごとの子どもの発達や園での教育を知る機会となることで保護者に好評でした。

大学との連携・交流として、ジャズ専修の池田先生を迎えて園内研修会を開いたり、幼教の 3 年生の打楽器演奏、3, 4 年生コース受講者のオペレッタ上演を行いました。打楽器演奏は在園児保護者、オペレッタは未就園児親子も参加しました。

3. ICT 化の活用と推進

保護者が Teams 使用に慣れ、3 学期、コロナ感染による休園や学年閉鎖の際にも、すぐにクラスでビデオ通話ことができました。殆どの家庭にビデオ通話は好評ですが、一方で、通信環境は家庭によって異なるため、ビデオ通話が行えない家庭があることは今後の課題です。

4. 附属校との連携・交流

附属高校とは、「幼稚園見学」や「運動会の応援参加」など、コロナ禍の中でも学生と子どもの交流をスムーズに行うことができました。附属小学校の音楽教員と 1 度交流会を持つことができましたが、その後、継続していません。

附属小学校が行っている ETM を開始しました。

運動会前日にコロナ感染者がでたことで、運動会が延期になりました。そのため、年長組は 10 月の土曜日に、音小で「ワクワクサタデー」を開催しました。音小の環境や、動物を通して小学校教員と交流が持てたことは有意義な時間となりました。

《園児獲得に向けて》

1. 満 3 歳児保育開始

幼稚園機能の中での子育て支援の一つとして、令和 4 年 1 月より満 3 歳児保育をスタートさせました。令和 3 年度～5 年度までの 3 年間で試用期間とし、今後の運用方法（開始期間、カリキュラム、補助教員の人数など）を検討していきます。

2. プレ幼稚園の充実

令和 4 年度の入園者の 40%が、在園児の兄弟関係であるという年回りだったため、入園者増加に結び付きました。しかし、令和 5 年度の兄弟関係は少なかったです。そのためにも、新規の入園者の獲得が課題であり、現在実施している未就園児たんぽぽクラスの保育内容を充実させるとともに、HP での広報を充実させていきます。

《コロナ対応》

コロナ禍での教育活動も 2 年目になりましたが、学年末に行った「コロナ対応アンケート」では、園の対応に「良好」との評価を頂きました。引き続き、園からの方針を明確にし、個別対応に努めていきます。

令和 3 年度は園内で子どもの骨折、剥離骨折がそれぞれ 1 名、家庭内で子どもの剥離骨折、保護者の骨折がそれぞれ 1 名と、これまでにない実態がありました。自粛生活からの運動不足と関係があることも考えられるため、子どもが体を動かして遊べる場の提供として園庭開放を積極的に行ってきました。

2. 施設の整備

2021 年度に実施した施設の整備は下記の通りです。

《大学》

- ・ SPC 棟アンサンブル室系統空調改修工事
- ・ 本部棟総務課情報処理盤更新工事
- ・ 警備員室内自動火災報知設備更新工事
- ・ 6 号館西棟トイレ改修工事

《中高》

- ・ 1 号館職員トイレブース更新工事
- ・ 1 号館教室リニューアル工事

《小学校》

- ・ リトミック室空調機更新工事

《幼稚園》

- ・ 用務員室改修工事

Ⅲ 決算及び財務の概要

1 決算の概要

(1) 貸借対照表関係

①貸借対照表の状況と経年比較

(単位：百万円)

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
固定資産	38,761	39,593	39,103	39,182	37,672
流動資産	3,055	1,883	1,698	772	1,568
資産の部合計	41,816	41,476	40,800	39,955	39,240
固定負債	833	899	861	822	820
流動負債	1,025	970	1,041	1,024	1,034
負債の部合計	1,858	1,869	1,902	1,846	1,854
基本金	45,854	46,617	46,992	47,389	48,279
繰越収支差額	△5,896	△7,010	△8,095	△9,280	△10,893
純資産の部合計	39,958	39,607	38,898	38,109	37,386
負債及び純資産の部合計	41,816	41,476	40,800	39,955	39,240

②財務比率の経年比較

比率項目	算出基準	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
運用資産余裕 比率	(運用資産－外部負債)／ 経常支出	351%	368%	363%	347%	331%
流動比率	流動資産／流動負債	298%	194%	163%	75%	152%
総負債比率	総負債／総資産	4%	5%	5%	5%	5%
前受金保有率	現金預金／前受金	373%	235%	200%	98%	222%
基本金比率	基本金／基本金要組入額	100%	100%	100%	100%	100%
積立率	運用資産÷要積立額(減 価償却累計額＋退職給与 引当金＋2 号基本金＋3 号基本金)	82%	75%	73%	69%	64%
負債比率	総負債／純資産	5%	5%	5%	5%	5%

(2) 資金収支計算書関係

①資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：百万円)

収入の部	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
学生生徒等納付金収入	3,882	3,710	3,586	3,594	3,592
手数料収入	28	27	29	29	29
寄付金収入	50	36	22	5	32
補助金収入	899	836	647	703	773
資産売却収入	501	303	1,803	401	1
付随事業・収益事業収入	54	70	82	64	87
受取利息・配当金収入	93	98	103	110	141
雑収入	192	98	153	89	53
借入金等収入	1	0	0	0	0
前受金収入	716	673	766	688	653
その他の収入	444	831	456	1,048	2,067
資金収入調整勘定	△1,152	△978	△805	△829	△757
前年度繰越支払資金	3,625	2,672	1,577	1,526	672
収入の部合計	9,334	8,377	8,418	7,429	7,343

支出の部	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
人件費支出	3,361	3,043	3,154	2,944	3,092
教育研究経費支出	839	845	879	1,097	993
管理経費支出	663	370	330	339	304
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	1	1	2	0	0
施設関係支出	651	1,625	335	665	818
設備関係支出	75	170	69	106	133
資産運用支出	1,001	695	2,001	1,517	500
その他の支出	240	262	248	242	248
資金支出調整勘定	△168	△212	△127	△153	△193
翌年度繰越支払資金	2,672	1,577	1,526	672	1,448
支出の部合計	9,334	8,377	8,418	7,429	7,343

②活動区分資金収支計算書の状況の経年比較

(単位：百万円)

科 目		2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
教育活動による資金収支						
	教育活動資金収入計	4,893	4,573	4,504	4,467	4,517
	教育活動資金支出計	4,864	4,258	4,356	4,380	4,390
	差引	29	314	148	87	127
	調整勘定	△109	120	23	△14	16
	教育活動資金収支差額	△80	434	172	73	143
施設整備等活動による資金収支						
	施設整備等資金収入計	212	598	103	805	1,936
	施設整備等資金支出計	725	1,795	404	771	951
	差引	△514	△1,197	△301	34	985
	調整勘定等	△3	△10	173	3	△12
	施設整備等活動資金収支差額	△516	△1,207	△129	37	973
	小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	△596	△773	43	110	1,116
その他の活動による資金収支						
	その他の活動資金収入計	738	491	2,011	642	257
	その他の活動資金支出計	1,096	795	2,099	1,606	593
	差引	△358	△304	△88	△964	△336
	調整勘定等	1	△17	△6	0	△4
	その他の活動資金収支差額	△357	△321	△94	△964	△340
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		△1,426	△953	△1,095	△51	776
前年度繰越支払資金		5,051	3,625	2,672	1,577	672
翌年度繰越支払資金		3,625	2,672	1,577	1,526	1,448

③財務比率の経年比較

・教育活動資金収支差額比率

	算出基準	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
教育活動資金 収支差額比率	教育活動資金収支差額／ 教育活動資金収入	△2%	10%	4%	2%	3%

(3) 事業活動収支計算書関係

①事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：百万円)

		2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
教育 活 動 収 支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	3,882	3,710	3,586	3,594	3,592
	手数料	28	27	29	29	29
	寄付金	24	25	24	7	25
	経常等補助金	714	654	647	700	746
	付随事業収入	29	36	44	26	49
	雑収入	192	101	153	117	59
	教育活動収入	4,870	4,554	4,482	4,473	4,500
	事業活動支出の部					
	人件費	3,317	3,049	3,119	2,964	3,090
	教育研究経費	1,748	1,719	1,739	1,960	1,891
	管理経費	720	444	447	465	433
	徴収不能額等	2	0	0	1	0
	教育活動支出計	5,788	5,212	5,306	5,390	5,414
	教育活動収支差額	△918	△658	△824	△917	△914
教 育 活 動 外 収 支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	93	98	103	110	141
	その他の教育活動外収入	2	10	14	14	14
	教育活動外収入	95	108	117	124	155
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額		95	108	117	124	155
経常収支差額		△823	△551	△707	△793	△759

特 別 収 支	事業活動収入の部				
	資産売却差額	1	3	3	1
	その他の特別収入	217	206	5	6
	特別収入計	218	208	8	7
	事業活動支出の部				
	資産処分差額	62	9	2	3
	その他の特別支出	0	0	8	0
	特別支出計	62	9	10	3
	特別収支差額	156	199	△2	4
		2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
基本金組入前当年度収支差額		△667	△351	△709	△789
基本金組入額合計		△258	△763	△375	△396
当年度収支差額		△924	△1,114	△1,085	△1,185
前年度繰越収支差額		△4,972	△5,896	△7,010	△8,094
基本金取崩額		0	0	0	0
翌年度繰越収支差額		△5,896	△7,010	△8,095	△9,280

(参考)

事業活動収入計	5,183	4,870	4,606	4,605	4,692
事業活動支出計	5,850	5,221	5,316	5,394	5,415

②財務比率の経年比較

比率項目	算出基準	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
人件費比率	人件費／経常収入	67%	65%	68%	64%	66%
教育研究経費比率	教育研究経費／経常収入	35%	37%	38%	43%	41%
管理経費比率	管理経費／経常収入	15%	10%	10%	10%	9%
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入	△13%	△7%	△15%	△17%	△15%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金／経常収入	78%	80%	78%	78%	77%
経常収支差額比率	経常収支差額／経常収入	△17%	△12%	△15%	△17%	△16%

2 その他

(1) 有価証券の状況

(単位：百万円)

種類	当年度（2022年3月31日）		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	12,651	12,222	△429
株式	—	—	—
投資信託	—	—	—
貸付信託	—	—	—
合 計	12,651	12,222	△429
時価のない有価証券	1		
有価証券合計	12,652		

(2) 借入金・学校債の状況

借入金・学校債なし

(3) 寄付金の状況

2021年度の寄付金額は3,200万円となり、2020年度から2,700万円増加しました。新しく導入した寄付金システムが本格稼働し、目的別に寄付金を募集しています。現在、進めている附属中高の新校舎建設プロジェクトに対する寄付金もその一つで、700万円が集まっています。

(4) 補助金の状況

2021年度の補助金収入は合計7億7,300万円となり、7,000万円増加しました。要因としては私立大学等経常費補助金、施設整備補助金が増加をしています。

(5) 収益事業の状況

2021年度の収益事業の営業利益は2,800万円となりました。これに伴い学校法人へ1,400万円の寄付を実施しました。

(6) 関連当事者との取引の状況

関連当事者との取引なし

(7) 学校法人間財務取引

学校法人間の財務取引なし

3 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

教育活動収入は減少傾向が続いていましたが、2021年度は大学の学生生徒等納付金、補助金、付随事業収入等が増加したことにより、45億円と10年ぶりに増加に転じました。これに対して教育活動支出も人件費の増加を主因として24百万円増加しましたが、教育活動収支差額はほぼ横這いに止まりました。教育活動外収支差額は受取利息・配当金の増加により31百万円増加し、教育活動収支差額と合わせた経常収支差額も34百万円改善しました。

基本金組入前当年度収支差額は昨年引き続き支出超過となりましたが、経常収支差額と同様に66百万円改善をしました。支出超過の主要因としては、教育研究経費、管理経費がともに削減できたものの、人件費が増加し、人件費率の改善が見られないことがあります。課題としては収入に占める割合の高い学生生徒等納付金を増加させること、上記の人件費を始めとした経費を削減することです。

中期計画では支出超過となっている収支差額を収支均衡させることを目標として収支改善施策を進めています。今後も継続して本学の目指すべきビジョンに基づき、教育プログラム改革、教育環境整備、学生支援充実等を軸に、入試制度改革、募集活動強化、ジュニア育成コース開講等により、これまで以上に魅力ある学園となるよう改革施策を推進することで、大学及び附属校への進学者数増を確保して、中長期的に財政安定化を実現する計画です。